

NO.8

2024年10月

長野反核医療者の会 会報



目次

平和のための信州・戦争展in飯田

飯田市長選 公開質問状

小山美砂さんカザフスタン報告会(予告)

戦争展IN飯田に参加しました！

8月10～12日に「第35回 平和のための信州・戦争展」が飯田市内で開催されました。飯田に住む戦争体験者の方のお話、731部隊証言ビデオ、飯田の「銃後」の暮らし、飯田市出身の反戦反核の芸術家北一明氏の展示など、地域に根ざした展示がたくさんありました。参加した会員からの報告を共有します。

ピースミーティング

戦争展最終日の午後はピースミーティング。当会メンバーの河野絵理子さんが、核兵器禁止条約第2回締約国会議の報告を行いました。

まず、竜東中学校の中学生による、満蒙開拓団で亡くなった方の年齢や死因など調べデータ化した報告でした。「一人ひとりの人生に思いを寄せてお名前を打ち込みました」との発言に心打たれました。次に松川高校のボランティア班による満蒙開拓記念館での案内活動などの報告でした。卒業生も参加していて、活動が代々受け継がれていることがよくわかりました。健和会病院の職員さんから能登半島地震の支援の報告があり、最後に河野さんの報告でした。

河野さんからは、冒頭で、自身が中学生の時に初めて訪れた広島平和記念館で、被爆者の描いた絵に衝撃を受けて眠れなかったこと。高校生の頃、世界で起こる戦争や飢餓に対し何もできない自分に無力感を感じ、医師になることに不安を抱いていたこと。医学生時代に反核医師の会と出会い「放射能を前に医学は無力であり、治療できないなら予防しかない、それは核をなくすこと」との考えに感銘を受け、反核医師の会の活動に参加するようになったことが語られました。

締約国会議の報告では「核被害者フォーラム」での経験から、医師として患者さんに向き合うことと、被爆者や戦争体験者と向き合うこと、苦しみを聴く姿勢を重ね合わせて考えるようになったと語られていたのが印象的でした。(次ページに続く)



(前ページからの続き)

最後に河野さんは「中高校生の頃は、こんな自分が医者になっていいのだろうか、自信が無かったけれど『医療者として平和を希求する』という医師像を見つけ、実践できるようになり、自信がついてきた」と今の心境を語りました。ともに学び活動してきた仲間としてとても嬉しく感動を持って聞きました。

会場からの発言では、年配女性の方が、祖父が村の満蒙開拓団の団長でそこで73人が集団自決したこと。父は97歳まで生き、生涯「戦争はだめだ」と平和を訴えていたことなどを切々と話され「若いみなさんが平和について考えていることが本当にうれしい」と涙ながらに話されていました。

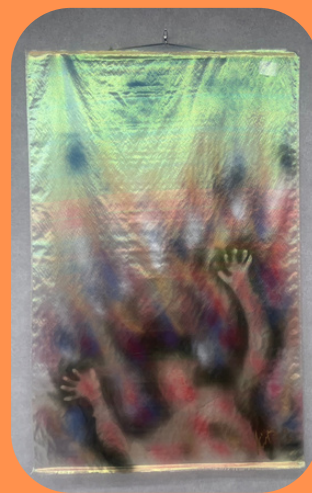
飾らず等身大で思いを語る河野さん、それを一生懸命に聴き入っている中高校生。自身とご家族の壮絶な体験をお話しして下さった地域の方。あたたかく見守って下さった学校の先生方や健和会病院の職員、地域の皆さん……。世代を超えてつどい、地域から、世界から、「平和」について考えて、語り合ったとても素敵な場でした。

映画「教育と愛国」・北一明展

ここ20年、日本の教育現場で戦後史の解釈をめぐる、2つの価値観がせめぎ合ってきたことを知っていますか？1つ目の価値観は「日本は敗戦国であり戦争を学ぶことは、強く美しい日本を否定することになる」という価値観、2つ目は、「日本の他国に対する加害と戦争のために自国民の人権を侵害しことについて、正しく学ぼう」という価値観です。

戦争展で上映された映画「教育と愛国」の中でも、両者の立場の違いが浮き彫りにされました。1つ目の価値観をもった政府から検定を受ける形で、教科書会社は正しい事実が書けない、または、ページを大幅に削られています。そんな中でも、正しい歴史を伝えたいと考える専門家がいることは一つの希望ですが、その方々は政府の無責任な、感情的な攻撃に曝されています。政府は、専門家を「公平にものを教える立場でありながら、偏った歴史解釈を伝えている」と批判します。しかし、政治家たちの「強く美しい日本と国民が信じる国にしたい」という考えも、偏った価値観であり、無責任な歴史解釈を押し付けることを教育と称していると感じざるをえません。愛国心の名の下に思想の自由が奪われることも危惧します。教育で与えられるものが正しいとは限らない、だからこそ自分で知ること、考えることが大切です。

自ら考え、発信する芸術家が飯田にいたことも戦争展では紹介されました。北一明という陶芸家です。彼は、戦争の炎、人の苦痛や死を書やデスマスクで表現しました。北は虹色に輝く塗料や鉱石を作品に使いました。その中に炎に揺れる人影、ゆがんだ横顔が隠れ、静かに戦争を憎む気持ちを伝えます。戦争に関する気づき、知見のヒントは芸術にもあれば、文学、哲学、様々な分野にあると気付かされました。どの分野でも、何歳でも、戦争反対の立場を取ることができます。自分のいる場所、好きな場所で、戦争を絶対にしないという学びを深めたいと感じました。



↑↓北一明の作品



飯田市長選 候補者に公開質問状を送りました！

飯田市長選が迫っています（10月13日告示、20日投開票）。長野反核医療者の会のアクションプランのうち「地域とつながるProject—地方議会からの平和の発信を求める」を実行するため、飯田市長選の候補者に公開質問状を送りました。回答を共有して投票の参考にさせていただく予定だったのですが・・・候補の佐藤健さん（現職）、新井信一郎さん（新人、元市議会議員）お二人ともから、回答を得られませんでした・・・。

飯田の地域の平和の取り組みについても踏まえながら、公開質問状を作成したのですが、大変残念です。回答の代わりに、質問状の一部を掲載します。全文はQRコードからご参照できます。

気を取り直して、今後も地方議会へのアプローチを模索したいと思います！もしご意見やアドバイスなどありましたら事務局までご連絡ください(^^)

公開質問状

飯田市では2020年に「核兵器禁止条約への日本政府の署名と批准を求める意見書」を採択しています。このような意見書を早い時期に採択できたのは、飯田市政が国際情勢に目を向け市民の声を丁寧に聞いてこられたからこそだと思います。私も長野反核医療者の会は、今後の飯田市政において、市民と協働した平和施策について非常に大きな期待を寄せております。新市長とも是非共に取り組みを進めていきたいと考えております。そこで飯田市長選挙にあたり、立候補予定者に対し、公開質問状を実施させていただきます。飯田市長選挙への立候補にあたって、世界の核情勢と日本政府の役割に関して、また市民の平和活動に関してのお考えをお聞きかせください。

- Q1. 日本政府は核兵器禁止条約に参加すべきだと思いますか。
Q2. 市民の平和活動への支援を考えていますか。



QRコードから
公開質問状の全文が
参照できます

小山美砂さんが松本に！

カザフスタン取材報告会

書籍「『黒い雨』訴訟」著者でジャーナリストの小山美砂さんが、この夏にカザフスタンの現地取材を行ったそうです。カザフスタンは、1949年以降450年以上に及ぶアメリカによる核実験が行われた国です。そして、2025年3月に開かれる核兵器禁止条約第3回締約国会議の議長国でもあります。

小山さんは、2022年11月に長野反核医療者の会と平和と憲法を守る信州大学人の会の共催で開催した講演会で、黒い雨訴訟についてお話してくださいました。その際はオンラインでしたが、今回は松本にお招きして直接お話をお聞きします！

カザフスタンの被害や議長国としての姿勢についてお聞きしたり、核兵器禁止条約に参加した会員の光武・河野との対談形式のお話も予定しています。ぜひご参加ください！

12月15日（日）

時間：13時開始（予定）

場所：松本市勤労者福祉センター
+ オンライン併用

核兵器禁止条約第3回締約国会議を一緒に盛り上げませんか？

全国キャラバン 受け入れ団体 大募集！

by 核禁条約をすすめる広島カザフスタン実行委員会

カザフスタン現地取材旅の後、
日本全国キャラバンを開始します！

2025年3月に開かれる核兵器禁止条約第3回締約国会議で議長国を務めるカザフスタンの被害や被害者援助をリードする同盟の動きをジャーナリスト・小山美砂が現地取材し、その報告会として全国キャラバンを実施します。ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト、核兵器を知りたい広島被害者有権者の会（カクワカ広島）、そして小山美砂の3者でつくる共同プロジェクトです。キャラバンを通じて締約国会議への関心を一緒に高めていきませんか？

あなたの街に
おじゃまします！



ジャーナリスト
小山美砂